

非常備蓄品は 3日分が必要です

《非常備蓄品》
◆非常食品◆
そのまま食べられるもの、または簡単な調理で食べられるものを用意しましょう。
◆水◆
飲料水と生活用水を用意します。飲料水は、1人1日3リットルを目安とし、生活用水はポリタンクなどに入れて保存しましょう。

☆食品やペットボトルの飲料水などには賞味期限等があります。定期的に確認し、入れ換えや補充を忘れずに行いましょう。
◆生活用品◆
カセットコンロや予備のガスボンベ、鍋、やかん、寝袋、毛布、衣類、ビニール袋、キッチン用ラップ、トイレトーパー、ドライシャンプー、洗面具、新聞紙などの他、生理用品や育児用品、介護用品、ペットフード等を用意しましょう。

避難場所を 確認しておこう

《各地域の町指定避難場所一覧》

地域名	避難場所	地域名	避難場所
湯本	湯本地域スポーツ施設運動場	宮城野	上河原公園
	神明町公園		箱根の森小学校校庭
	湯本小学校校庭		旧県立城内高校箱根分校跡地
	畑宿寄木会館駐車場		宮城野保育園園庭
	環翠楼駐車場		箱根中学校校庭
温泉	温泉幼稚園園庭	仙石原	唐沢公園
	大平台ふれあい広場		旧仙石原保育園園庭
箱根	箱根集会所駐車場		仙石原小学校校庭
	県営駐車場および苑地		仙石原公園
	湖畔伊豆箱根船舶広場		仙石原地域スポーツ施設運動場
	元箱根集会所前		湖尻集団施設地区運動広場
	阿字ヶ池園地		
	箱根地域スポーツ施設運動場		

災害から復旧するまでの数日間は自活しなければなりません。
最低でも3日分、できれば5日分の非常備蓄品をそろえておきましょう。

非常食品には、アルファ米やレトルトのごはん・おかず、保存用パン、缶詰、インスタント食品、梅干し、調味料など。チョコレートや飴といったおやつもあるといいですね。

非常備蓄品として、いざというときの生活用水用に、風呂の水を次に入るまで保存しておく習慣もつけましょう！

この他に反射式石油ストーブやカイロ、(手回しの懐中電灯付き)ラジオ、乾電池、携帯充電器、自転車などはこれまでの大震災のときに実際に役立つとされています。

自分が住む地域や勤務している地域の避難場所をあらかじめ覚えておきましょう。

地震が来る前に やっておきたい4つのこと～

近い将来に発生が予想されている県西部地震や東海地震などの大震災に対する準備は、進めておく必要があります。
4つのポイントを挙げましたが、被災後に自活するための非常備蓄品を用意しておくことは、特に重要です。この2ページは冊子から外して保管できますので、保存版として活用してください。
なお、9月5日(月)は総合防災訓練の実施日です。
箱根中学校(宮城野地域)を中央会場として、町内全域で行いますので、積極的に参加しましょう。
照会先 総務課 ☎85-9561

非常持ち出し品は 持ち出せる 場所に！

非常持ち出し品は、避難するときにはまず最初に持ち出す最小限の必需品です。
最近では、ホームセンターなどで、セットになった袋入りのものも売られています。
重さの目安は男性で15kg、女性で10kg程度です。
家族構成や性別、年齢、身体状況などに応じて、各自必要なものを準備し、リュックサックなどに入れて、すぐ持ち出せる場所に置いておきましょう。

- 《非常持ち出し品リスト》
- 貴重品(現金、通帳、印鑑、健康保険証、運転免許証など)
 - 非常食品(飲料水、インスタントラーメン、缶詰、かんぱん、ビスケットなど)
 - 応急医薬品(ばんそうこう、傷薬、包帯、胃腸薬、鎮痛剤、解熱剤、消毒薬など)
 - 処方薬
 - 衣類(セーター、ジャンパー類、下着、毛布、厚手の手袋など)
 - 育児用品、介護用品(ミルク、ほ乳ビン、紙おむつなど)
 - その他(ヘルメット、携帯用ラジオ、予備電池、マッチ、ろうそく、懐中電灯、ナイフなど)



月に一度は 家族で話し合いを

災害は、家族がいっしょにいるときに起こるとは限りません。
事前の防災のこと、実際に被災したときのこと…家族で定期的に防災会議を開きましょう。

- 《話し合うべき内容》
- 家の中はどこが安全か
 - 地震が起きたときの各自の役割・通常および離れ離れになったときの最終的な連絡先、避難場所の確認
 - 災害用伝言ダイヤル1717の活用
 - 消火器などの使い方
 - 非常持ち出し品のチェックと、避難するときに持ち出す人は?
 - 家具転倒防止対策と、家の中や出入り口などの整理整頓
 - 避難するときの高齢者や子どもの保護担当者
 - 付近のブロック塀や倒れそうな塀など、危険な場所の確認
 - 昼夜それぞれの家族一人ひとりの行動

